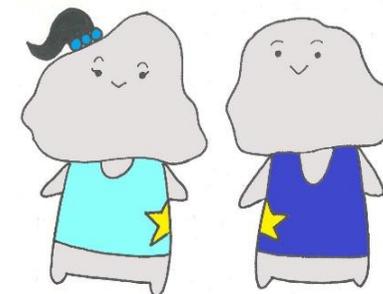


令和2年度 学校評価のまとめ



■ 本校の教育目標 ■

校訓	めざす児童像
楽しく	……… みんなと力を合わせ、楽しく学習する子
正しく	……… 心豊かに、正しい判断ができる子
たくましく	……… 心身ともに健康で、ねばり強い子

■ 経営方針 ■

教職員スローガン …… 関わり 学び 実行する

関わって実態をつかむ、自ら学び専門性を高める、為すべきことは実行に移す
 ア 教職員の「情熱、創意」と「チーム力」をもって、「めざす児童像」の実現に向けた教育活動を推進する。
 イ 教育職として自ら学び、資質向上に努め、児童一人一人を大切に教育を推進する。
 ウ 家庭や地域と連携し、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。

■ 本年度の重点努力目標 ■

- ア 「みんなと力を合わせ、楽しく学習する子」の育成に努める。
 - ・学び合う授業を軸とした現職教育の推進
 - ・ICT機器を有効活用した授業の追究実践
- イ 「心豊かに、正しい判断ができる子」の育成に努める。
 - ・命の大切さと思いやりを重点とした道徳教育の推進
 - ・情報モラル教育の実施
 - ・教育相談を活かした生活指導の充実
- ウ 「心身ともに健康でねばり強い子」の育成に努める。
 - ・合い言葉「あいさつ 返事 整とん」の励行
 - ・体力づくりをめざした体育的活動の充実
 - ・望ましい生活習慣を身に付ける健康教育と食育の充実
 - ・危機回避能力を養う防災・安全教育の充実
- エ 連携活動を充実し、開かれた信頼される学校づくりを推進する。
 - ・幼保児小中連携教育の推進
 - ・児童や教職員の地域行事への参加
 - ・ホームページ、たよりによる学校からの情報発信
 - ・教職員の資質向上に向けた現職教育の充実
 - ・姉妹校オーストラリアポートフィリップ市セントキルダ小学校との交流活動の実施
- オ 教職員の多忙化解消に努める。

■ 学校評価のねらいと方法 ■

- (1) 教育活動の改善・充実・発展につなげるために、教育目標・経営方針・重点努力目標に即した評価項目を設定する。
- (2) 特色ある学校づくりをより一層推進し、学校の活性化を図る。
- (3) 学校評価により、教師自身の意識を高め、授業力向上を目指す。
- (4) 学校評価をもとに、児童・保護者・地域の思いを反映した学校経営、学年経営を展開し、開かれた学校を目指す。
- (5) 学校評価を検討・実施・集計・分析する中で、経営方針・本年度の努力目標・教育活動の全般の見直しをして、教育活動の成果を重視した積極的・建設的な学校改革を図る。

12月に実施しました「石ヶ瀬小学校をよりよくするためのアンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。725名の保護者の皆さまから回答をいただきました。児童972人に実施しましたアンケートと合わせて、結果と考察をお知らせいたします。

今年は「4 そう思う」「3 だいたいそう思う」「2 あまりそう思わない」「1 ぜんぜんそう思わない」「0 わからない(保護者のみ)」で答えていただきました。達成率は、すべての方が3の「だいたいそう思う」だった場合の平均が3であるため、3を超えているかを「達成できている」の評価の指標としました。(4・・・100% 3.6・・・90% 3.2・・・80% **3・・・75%** 2.8・・・70% 達成できていない評価項目は網掛けにしています。)

昨年度の数値を()内に示しました。評価項目を見直したため、昨年度の項目に無かったものは(-)で示しました。

【4:そう思う 3:だいたいそう思う 2:あまりそう思わない 1:ぜんぜんそう思わない 0:分からない(保護者のみ4～0)】

学校評価一覧

評価領域	評価項目	児童			保護者			教職員			考 察
		児童	保護者	教職員	児童	保護者	教職員	児童	保護者	教職員	
1	学校生活の充実	学校が楽しい。	子どもは学校が楽しい。	児童が学校を楽しく感じられるよう、工夫や努力ができた。	3.6 (3.4)	3.5 (3.3)	3.2 (3.2)	○「学校が楽しい」と感じている児童が多くいました。楽しいと感じられるために、「勉強がわかる」「教師や友達とのよい関係が築けている」「主体的な活動が多い」等、児童を主体にした取り組みの充実を図っていきます。半面、5%に児童は「あまりそう思わない」「ぜんぜんそう思わない」と答えています。教師が一人一人をよく見て関わっていく必要があります。 ○今年はコロナ禍の中、学校行事等が制限されました。来年度は、新しい生活様式の中、何ができるかを考え、工夫した学校行事を行なっていきます。			
2	確かな学力を育てる 基礎基本の定着	授業がよく分かる。	子どもは授業が分かりやすいと感じている。	基礎基本の充実と分かりやすい授業づくりのために、授業の工夫・改善を心がけた。	3.4 (3.3)	3.2 (3.0)	3.3 (3.0)	○算数では、2年生以上にITを取り入れ、基礎基本の充実を図ってきました。今後も個に応じたきめ細かな指導が行えるよう、教員配置を考えたり、分かりやすい授業を心がけたりするなど、指導を工夫していきます。 ○家庭学習の取り組みには個人差が見られます。宿題の内容や出し方等の工夫も含め、ご家庭の協力も仰ぎながら、個に応じた指導に努め、基礎基本の定着を図っていきます。また、4年生以上に貸与されたタブレットを使った家庭学習のやり方も今後の課題です。			
3	言語活動の充実	自分の考えや気持ちを、相手に話すことができる。	子どもは、自分の考えを人に話すことができる。	めあてと振り返りを設定し、言語活動の充実を意識した、伝え合い、学び合う教育活動を工夫・実践した。	3.1 (3.0)	3.0 (2.9)	3.1 (2.6)	○授業の中で、はじめに学習のめあてを提示し、授業の終わりに振り返りを行うという流れが定着してきました。振り返りが次の授業に生きる学習の流れを意図的に作っていく必要があると考えます。 ○本年度はグループ学習ができず、少人数での話し合いを行う場面がほとんどありませんでした。しかし、タブレットを使い、自分の意見をまとめ、互いに共有する場面が増えました。発表が苦手な児童は活躍の場が広がりました。授業の中で、常に伝え合うことを意識して行っていきます。			
4	主体的な学び	友だちや先生の話をよく聞き、進んで学習している。	子どもは自主的に学習している。	児童の興味関心を大切に、思考力・判断力・表現力を高める指導を工夫した。	3.4 (3.4)	2.8 (2.7)	3.1 (-)	○保護者アンケートでは、昨年度より0.1ポイント上がってはいるものの、児童、教職員と比較して低い値となっています。学校では、努力した過程を認め、褒めて自信をつけさせ、頑張る気持ちを育てるようにしています。今まで以上に家庭と学校が連携して、児童の主体的な学びを後押しする授業や課題について工夫していきます。			

5	確かな学力を育てる	ICT教育	電子黒板やタブレットを使った勉強が好きだ。	子どもは電子黒板やタブレットを使った学習が好きだ。	情報モラル教育を実施するとともに、ICT機器を有効に活用し、分かりやすい授業に努めた。	3.7 (3.6)	3.5 (-)	3.0 (2.7)	○1月から4年生以上の学年でのタブレット持ち帰りが始まりました。キーボード入力にも力を入れているため、児童は昨年度の3.6ポイントをさらに上回りました。着実にICTを活用する力をつけています。 ○タブレットを使った学習は、教える教師にとっても初めてのことが多く、課題が多いため教職員の評価が児童に比べ低いと考えられます。しかし、従来の学習方法もうまく組み合わせながら、効果的な使い方を模索していきます。
6	生徒指導	基本的な生活習慣	「あいさつ」「返事」をしている。	子どもは、「あいさつ」「返事」ができる。	児童が進んで「あいさつ」「返事」ができるよう、指導した。	3.3 (3.0)	3.2 (2.7)	3.3 (3.1)	○「『あいさつ』『返事』ができています」と答えた児童が46.3%もいます。日常生活の中で、教職員のあいさつが児童の手本となるように、粘り強く声をかけ続けていきます。 ○地域の方々からも「あいさつしても返事が返ってこない」という話を伺うことがあります。保護者・地域の皆様からの協力をいただきながら、学校全体で取り組んでいきます。 ○授業の中で「返事」がしっかりできるような指導・工夫を積み重ねていきます。
7		社会性	ルールやマナーを守っている。	学校は、ルールやマナーの大切さを指導している。	児童が社会的ルールやマナーを学び、自ら判断して行動できるように指導している。	3.4 (3.4)	3.2 (-)	3.5 (3.3)	○学校では、時と場に応じた指導を行い、気づいたことがあればその場で指導するようにしています。日々の教員の声かけが大切だと考えています。 ○児童会や委員会が中心になって「トイレのスリッパを揃える」「整頓をする」という活動はをすることができました。今後も児童主体の活動を大事にしながら、社会性を高めていきます。
8		いじめへの対応・信頼関係	先生は、がんばったことはみとめて、ほめてくれる。	担任は子どもの話をよく聞き、がんばったことを認めている。	日頃から児童が気軽に相談できるような心がけ、個を大切にした児童理解と問題把握に努めた。	3.3 (3.4)	3.2 (3.1)	3.5 (3.1)	○いじめを早期発見するために、児童の小さな変化も見逃さないよう、教師がアンテナを高くし、児童との信頼関係を築いています。また、学期に一度の教育相談を有効に生かすとともに、得られた情報は学級だけでなく、学年や学校全体で共有しています。今後も、いじめは絶対に許さないという姿勢で取り組んでいきます。 ○保護者が学校に相談しやすい体勢を整え、児童の成長を保護者と連携して見ていきます。
9	児童・家庭との信頼関係	先生は、学校であったことや、困ったことを家の人に伝えてくれる。	担任は、事故や気になる出来事を保護者に伝えている。	児童の安全と健康を守るため、事故・事件に対して、迅速かつ適切な対応をとることができ、保護者や関係諸機関と連携がとれる体制になっている。	3.3 (-)	2.9 (3.1)	3.5 (3.4)	○保護者に知らせるべき出来事はその日のうちに伝えること、また、欠席が続いた場合には、保護者と連絡を取るとともに、学年内でも情報を共有していきます。 ○保護者と学校だけでなく、外部機関との連携体制が必要な場合が増えていきます。児童にとってより有効な情報共有を今後も続けていく必要があると考えています。	
10	豊かな心・健やかな体を育てる	道徳教育	友だちがいやがることはしていません。	学校は道徳指導で命の大切さや思いやりを重点に、子どものモラル向上やいじめ撲滅に努力している。	道徳の実践や日常生活の指導等で、命の大切さや思いやりを重点に、児童の人間性やモラルの向上、いじめの予防に取り組んだ。	3.4 (3.3)	2.7 (2.8)	3.5 (3.0)	○平成30年度から道徳が「特別の教科道徳」として位置づけられ、週に1時間の授業を行なっています。授業では、授業の質的変換を課題とし、児童が自分自身のこととして考えることができる、日頃の生活の中で、生かしていくことができるように、教師の指導力を高めていきます。 ○道徳的な判断力等は、学校生活や家庭生活を通して育まれるものと考えます。保護者の皆様にも、学校でどのような授業をしているか、伝えていくことが課題です。
11	健康づくり		外で元気に遊んだり、好ききらいなく食べたりしている。	学校は、健全な心と体をつくることを意識して指導している。	児童の体力作りが心がけ、健全な心と体を作ることを意識して指導した。	3.3 (3.4)	3.0 (3.0)	3.3 (3.0)	○本年度は、制約のある中での体育、運動の実践になりましたが、手洗い、マスクの着用に気をつけながら、やれることをやるという姿勢で行なってきました。マラソンタイムが例年より長めの期間行うことができたことはよかったことと捉えています。

12	豊かな心・健やかな体を育てる	規則正しい生活習慣	早ね・早起き・朝ご飯を心がけている。	子どもは、規則正しい生活ができています。	早寝・早起き・朝ご飯、歯磨きなどの生活習慣を身につける指導をした。	3.3 (3.1)	3.2 (-)	3.3 (-)	○「そう思う」と答えた児童は、53.1%もいます。しかし、スマホやゲーム機器等の使用等により、生活のリズムが整わない児童も見られます。学校保健委員会など、機会を捉えて、健康に及ぼす影響を考えさせていきます。
13		新しい生活様式	体温を測る・マスクを着ける・手を洗う・密にならない等に気をつけて生活できた。	学校は新しい生活様式を踏まえた、安心・安全な指導を行っている。	新しい生活様式を踏まえた学習指導・生活指導を心がけた。	3.5 (-)	3.1 (-)	3.4 (-)	○ほぼ全員の児童が、マスクを着用して生活することができました。「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた児童が93.7%いることから分かります。また、手洗いを進んで行う児童が多く、保健委員会を中心に、児童も新しい生活様式での生活を呼びかける活動ができていました。 ○教室では密にならない等を得ず、換気・消毒・授業形態・前向き給食等、常に気をつけて過ごす一年でした。今後も継続していきます。
14	安全・安心な教育環境整備	安全管理	すすんで掃除をしたり、整理整頓をしたりできた。	学校は清潔で整頓され、学校環境が整備されている。	教育効果を高める清潔で安全な環境整備を心がけた。	3.3 (3.1)	2.9 (3.0)	3.5 (2.8)	○昨年度に引き続き、保護者の皆様から「校内が汚れている」「十分な清掃が行えているか」等のご意見をいただいています。『そう思う』と答えた保護者の方は23.5%にとどまりました。限られた15分という清掃時間の中で、「自分たちの学校は自分たちで美しく」という意識を育てながら、環境を整えていきます。 ○OPTA活動として、トイレ掃除を行っていただきました。大人の手が入ることで、見違えるようにきれいになりました。ありがとうございました。
15		防災教育の充実	真剣に避難訓練を行い、自分の命は自分で守ろうと思う。	緊急事態に備えた訓練や日々の実践を通して「自分の命は自分で守る」指導を行った。	風水害や地震・火災及び不審者などによる緊急事態に備え、児童・教職員が危機回避能力を高めることができるよう組織的に対応している。	3.7 (-)	2.8 (-)	3.3 (3.1)	○地震・火事・不審者対応避難訓練（不審者対応は教師のみ）を真剣に行うことで、自分の命は自分で守るという自覚は高まっています。「そう思う」と答えた児童は76.3%もいました。放課時に地震の避難訓練を行い、自分の力で身を守る経験が、児童のポイントの高さにつながっていると考えられます。
16	SDGs	持続可能な生活	電気や水を大切にするなど、環境問題について日ごろから意識している。	子どもは、環境問題を意識して生活している。	環境問題を意識した生活と指導に努めた。	3.4 (3.2)	2.6 (-)	3.1 (-)	○児童はゴミを分別したり、教室を出る時に電気を消したりしています。また、今年は特に手を洗う機会が多かったのも、水を大切にすることを意識する機会が増えたと思われる。 ○大府市は「サステナブル健康都市」を掲げていますが、児童会活動でも寺子屋運動に取り組み、主体的に活動しています。今後もこのような取組を続けていきます。
17		特色ある行事	石ヶ瀬小学校ですきな活動や気に入っているところがある。	学校は特色ある学校づくり（石ヶ瀬小のよさが出るような活動）をしている。	学校は特色ある学校づくり（石ヶ瀬小のよさが出るような活動・セントキルダ小学校との交流含む）をしている。	3.6 (-)	2.7 (2.8)	3.1 (3.3)	○児童は児童会活動や総合的な学習の時間、日々の生活を通して、楽しく生活できていることがポイントから伺えます。運動会では、短い練習時間ながら、精一杯取り組む姿が見られました。また、本年度は行うことができなかつたいしがせつ子フェスタを今後は学びのまとめとして児童が活躍できる行事にしていきたいと思えます。 ○保護者の方からのご意見では、「石ヶ瀬小学校のよさや特色が分からない」というご意見をいただいています。大規模校である多様性、様々な施設、地域のみなさんに支えられた環境、発想豊かな児童会活動など、石ヶ瀬小学校の特色をより意識した学校づくりを行なっていきます。
18		きらチャレ	きらきらチャレンジウィークでは、テレビやゲームの時間を減らし、家族と過ごしている。	ノーテレビ、ノーゲームデーを作り、キラキラチャレンジを実践した。	きらきらチャレンジウィークの活動を啓発した。	3.1 (2.9)	2.5 (3.3)	2.9 (-)	○大府市の幼保・小中学校全て取り組んでいる活動です。しかしながら、「そう思う」と答えた保護者の方が、16.8%にとどまり、質問事項の中で最も低いポイントとなりました。きらチャレの取組が有意義なものになるよう、学校からも「きらチャレ」の意義を十分伝えていく必要性を感じています。 ○児童からは、「家族と一緒に料理をした」「サイクリングをした」「縄跳びの練習をした」など、きらチャレの取組を楽しんでいる様子がうかがえました。

19	家庭・地域との連携	情報の共有化	学校だよりやホームページを見ています。	学校は学校だよりやホームページで校内の様子を伝えている。	学校は、学校だよりや学年だより、ホームページ等で、学校の様子を家庭や地域に伝えている。	2.8 (-)	3.6 (3.1)	3.7 (3.2)	○毎日更新するホームページや、運動会のユーチューブライブ配信など、満足していただいている旨を、自由記述にたくさん書いていただきました。「そう思う」「だいたいそう思う」と答えていただいた保護者の皆さまが95.9%もいました。特に本年度は来ていただくことができませんでしたので、今後より分かりやすく、学校生活の様子をお伝えしていきます。 ○児童が学校だよりやホームページを大人ほど意識していないことが伺えます。学校だよりやホームページを親子で見えていただきながら、学校の様子を共有し、会話を増やしていただけたら幸いです。
20	開かれた学校づくり	夏祭り・ゴミゼロ運動・公民館祭りなどに参加した。	学校は積極的に家庭や地域との連携・協力を努めている。	地域の人材を活用したり、学校行事の運営等をPTAや地域と協力して行うなど、地域に開かれた教育活動を推進した。	2.8 (-)	3.0 (2.8)	3.1 (3.5)	○本年度は、コロナ禍で、地域の行事がほとんど行われませんでした。そのため、「そう思う」と答えた児童が33.8%も減り、児童のポイントが低くなっていると思われます。ですが、交通当番や夏休みの愛の見守り隊の活動などを通して、地域の皆様に支えられていることを実感することができました。 ○今の状況が収まりましたら、改めて地域に開かれた学校として、学校からの情報発信や連携、地域の皆様のご協力を得て、教育活動を行なっていきたいと思います。	
21	働き方改革	ワークライフバランス		学校は働き方改革が進むように、業務の内容や進め方の改善に取り組み、ワークライフバランスを考え仕事に取り組みしている。				3.1 (3.1)	○教員自身が健康で豊かな生活を送ることが、児童の充実した学校生活、幸せに繋がるということが、働き方改革の考え方です。教員の働き方改革は、教員が一人一人の児童に丁寧に関わりながら、質の高い授業や個に応じた支援を実現していくための重要な課題です。保護者の皆様や地域の皆様のご理解、ご協力を得ながら、教員が学習指導や生徒指導などの本来の業務に専念できる環境作りを勧めています。

【学校関係者評価委員のご意見】

- ・校内の清掃を、業者に委託してはどうか。月に1回でも、業者が入ることにより、日頃手の届かない場所がきれいになる。
- ・小さいときから手を挙げて、横断歩道を渡る意識をもたせることが大切ではないか。
- ・安全面を考慮し、通学路の変更を検討してはどうか。（日本高圧東の道路、大府駅西交差点から江端北Cの遊歩道へ）
- ・新しい生活様式の中で入学した1年生に、どのような影響があったのか心配している。家庭も大変だったのではないか。
- ・顔を知らないあいさつができないという状況が心配である。
- ・学校評価アンケートは、3点以上になりやすい。2点台の項目に、問題意識をもってほしい。また、児童・保護者・教職員すべての評価が均一になることが理想である。
- ・あいさつ、学習など、小学生は習慣化を形成する時期である。家庭・地域・すべてを利用していただき、一緒に子育てをしていきたい。
- ・ICT教育に熱心に取り組んでいる。キーボード等、機器の充実を望む。